

## 平成23年度 学校自己評価表〔全日制〕

香川県立坂出工業高等学校

## ◆学校運営方針

学 校 運 営 方 針	評 価
本校は、「実践をとおして、実社会に直接活かせる知識・技能を身につける専門高校」であるとの共通理解のもと、教職員が組織となって指導力を発揮して、生徒に「工業に関する知識と技能の定着と、それを活用する実践力」「社会人に求められる教養・資質」「強靱な心身」を育む指導を進め、本校のよき伝統の継承と深化を図っていく。	B

## ◆年度重点目標および具体的目標

23年度重点目標		具 体 的 目 標
1	確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学ぶ意欲を高め学習習慣の定着を図るとともに、工業に関する専門的な知識・技術を含め、基礎・基本の定着を図るため、指導方法の工夫や授業評価の改善を進める。</li> <li>実習等の授業や特別活動等において、ものづくり体験をさらに充実させるとともに、各種競技大会やものづくりコンテストに積極的に参加することなど、実体験をとおして、工業のより高い実践力の育成に努める。</li> <li>計画的な資格取得指導を徹底する。また、学習の理解度を確認するための各種テストを実施し、家庭学習の習慣付けなどの自己啓発を促すとともに、個に応じたきめ細かい指導の実践に努める。</li> </ul>
2	キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職内定率100%を維持するとともに、インターンシップや職場見学会などを活用して、望ましい職業観・勤労観を育成する。</li> <li>将来社会人として「社会的・職業的」に自立できる能力や態度を育てるためのキャリア教育を実践し、将来を見据えた進路選択が早期にできるよう指導する。</li> <li>進学希望者の自己実現のため、習熟度別学習の充実に努めるとともに、基礎学力の定着から国立大学への進学に対応できる高度な応用力の育成まで、学力の向上を図る。</li> </ul>
3	豊かでたくましい心をはぐくむ教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活の様々な場面を通じて規範意識・人権意識の高揚を図るとともに、礼儀を重んじ、社会性を育む。</li> <li>生徒が抱える問題を早期に発見し、家庭との連携を密にし、関係機関の協力を得ながら支援を行う。</li> <li>活発な部活動を通して、協調性・社会性を育むとともに、強健な心身と自主自立の精神を涵養する。</li> </ul>
4	信頼され魅力ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ・携帯閲覧サイト・坂工だより等を有効に活用して、学校の情報を浸透させるように、より迅速に広範囲に提供する。</li> <li>ものづくりの技術や部活動単位の地域との交流活動を活かして、地域に貢献することを目的とし、坂工ものづくり教室などのイベントを企画したり、地域の行事により多く参加させたりする。</li> <li>学校内外での事故防止や事故対応マニュアルを確認し、常に教職員が適切・迅速に対応できるようにする。</li> <li>情報セキュリティ実施手順、個人情報管理票により個人情報の漏洩防止対策を徹底する。</li> </ul>

## ◆本年度の成果

<p>(1) 「教育課程・学習指導」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新しく取り組んだゼロハンカーの製作など、課題研究の内容が充実できた。</li> <li>1種電気技能試験は16名の受験者全員が合格し、昨年より成果をあげた。</li> <li>危険物乙種全類16名、甲種は4名が合格し、昨年より好成績であった。公害防止管理者国家試験(ダイオキシン類)も昨年を上回り7名が合格し、4年連続10代での合格者全国1位を維持した。</li> </ul> <p>(2) 「生徒指導」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中退者1%以内、長期欠席者1.5%以内の目標に達し、遅刻者も減少した。</li> <li>関係機関との連携も密にとれ、充実した交通安全教育や薬物乱用防止教室等が実施でき、生徒の安全に対する意識や規範意識の高揚が図れた。また、校外補導等も関係機関と連携して行えた。</li> </ul> <p>(3) 「特別活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度新たに取り組んだアルミ缶の回収など、生徒のボランティア活動への意識が高まり、清掃奉仕活動等において近隣の方々からお褒めの言葉を頂くなど、大きな成果があげられた。</li> <li>部活動においては、全国大会、四国大会出場数は、ほぼ達成できた。</li> </ul>
---

**(4) 「進路指導」**

- ・インターンシップと工場見学を全科で実施し、専門の学習を深めるとともに、就業意識が高まり、進路選択に大いに役立った。また、今年度も100%就職内定を実現できた。
- ・進学コースを中心に志望校に応じた個別指導を行い、入試に対応できる学力を身につけさせた。その結果、国公立大学に昨年度より1人多い4名が合格した。

**(5) 「安全管理」**

- ・昨年度までの防災訓練に加え津波に対する避難訓練を2回実施し、生徒の行動は良好であった。
- ・各科・週番職員等による日々の校内巡視や学期毎の校内防災査察を実施した。適宜生徒への危険箇所等の周知・指導を行い、校舎の耐震工事による制限の中、点検不備等による事故はなかった。

**(6) 「保健管理」**

- ・水質検査や教室等の照度検査を定期的に行い、校内における環境衛生の改善を図ることができた。また、保健だよりの毎月の発行により、生徒の健康管理能力向上の手立てとなった。

**(7) 「研修」**

- ・授業相互参観や公開授業、初任者研修での研究授業など授業研修の機会を多く設定した。また、県外の企業や「ものづくり」における先進校の視察を行い、各種競技大会への参加への取組み・資格試験指導等において大いに参考となる点があり、本校教員の指導力向上をはかる刺激となった。

**(8) 「保護者・地域住民との連携」**

- ・坂工だよりの充実や近隣中学校等への配信、また、ホームページの更新にも努め、保護者・地域の方々への充実した情報提供が行えた。
- ・体験入学や坂工ものづくり教室を4学科の足並みを揃えて指導を生徒主体で実施した。アンケートで高評価が得られ、開かれた学校づくりおよび地域との交流の所期の目的を達成することができた。

**◆次年度への課題****(1) 「教育課程・学習指導」**

- ・今後も課題研究の内容を十分検討していきたい。また、次年度は技能検定の内容を実習に取り入れるようにしたい。今後も各種競技大会やものづくりコンテストにより積極的に参加することなどにより、工業のより高い実践力の育成に努めたい。
- ・基礎学力が十分でない生徒に学習指導を行い、学習意欲が高まるように個別指導等を行うなど指導方法を工夫していきたい。
- ・各科で資格取得を目指した課外指導等を行い、十分に成果を上げているものもあるが、年間を通して資格試験が続くため、資格を選択しながら緊張感を持って指導を続けたい。

**(2) 「生徒指導」**

- ・携帯電話教室等、警察以外の機関との連携も検討したい。大きな問題行動は少なく成果が現れているが、個別に指導が必要な生徒は増加した。次年度も引き続き、指導基準等を見直す必要があるものについては見直し、全職員が指導しやすい体制をつくりたい。
- ・学習面や部活動等の問題で不登校傾向の生徒が数名見られたが、今後も家庭およびスクールカウンセラー等の協力を得ながら、問題を抱える生徒への支援を行っていきたい。

**(3) 「進路指導」**

- ・早い時期から生徒の進路意識を高めるとともに、保護者や企業との情報交換をより一層はかりたい。また、生徒が興味を持って取り組めるような、就職・進学に関するガイダンスや講演会等を企画し、生徒の進路意識の向上に繋げたい。
- ・志望校に関する知識を深め、入試に向けた学習を早期に開始したい。また、進学後の学習に対応できる学力を養いたい。

**(4) 「特別活動」**

- ・部活動では全国大会及び四国大会出場数はほぼ目標を達成できており、一定の評価はできるが、退部者も減少傾向にはあるが、各部の入部率向上などの取り組みを行いたい。
- ・部活動単位での自主的・継続的な清掃活動や、近隣の保育所等との交流をより一層進めたい。

**(5) 「保健管理」**

- ・3学期に入ってからインフルエンザが校内で蔓延した。原因は校舎の改修工事によりHR教室がプレハブ校舎となり、例年とは異なった環境（エアコンでの暖房可となり湿度が不足）であったことによるものではないかと考えている。毎年流行する冬季のインフルエンザに対して、教室内の乾燥を防ぐ手立てを流行前に講じていきたい。

**(6) 「安全管理」**

- ・通常の避難訓練に加えて、今年度は津波に対する避難訓練を2度実施した。2度目は大幅な時間短縮も図れ、円滑な訓練が行えた。今後も一層教員・生徒の危機管理意識の高揚を図るとともに安全教育の更なる徹底をはかりたい。

◆評価段階

A	達成できた
B	ほぼ達成できた
C	あまり達成できなかった
D	達成できなかった

◆学校自己評価

分類	分掌	評価指標	評価規準	評価		
				具体的結果・根拠	小項目	大項目
教育課程・学習指導	教務	魅力ある授業の提供	生徒からの授業評価および、教員相互授業参観を年2回ずつ実施してその結果や意見交換により授業を改善し、より魅力ある授業の実現を図る。	授業評価と相互授業参観を2回ずつ実施できた。授業改善に役立っていると思われるが、十分な検証はできていない。	B	B
	教務	学習習慣の定着と基礎学力の充実	自主学習の時間等により学習習慣の定着を図るとともに、評価や指導の工夫等により、学習やテストへの意欲を持たせ、基礎学力の向上をめざす。	自主学習の時間は有効に活用できた。成績不振者の指導に力を注いだが、基礎学力がまだ十分でない生徒がいる。	B	
	1年団	基礎学力の定着	定期考査時に家庭学習をしつかりさせる。小テストに積極的に取り組ませる。	成績不審者の指導に力を入れたが、基礎学力が十分でない生徒が多い。	B	
	機械科	専門分野における実践力の育成	作品の製作をとおして基本的な技術・技能を身につけさせる。また資格等も積極的に取得させる。	新しくゼロハンカーの製作に取り組み、課題研究の内容が充実してきた。	A	
	電気科	資格取得の充実	1年生で計算技術3級・情報技術3級の全員合格、2年生で電気2種全員合格、3年で電気1種、電験3種の合格をめざす。	1種電気技能試験については受験者全員合格できた。(16名)	A	
	建築科	資格取得の充実	1年生ではトレース3級・情報技術3級・計算技術3級的全員合格。2・3年生では標準テスト70点以上合格をめざす。	トレース・計算技術検定では合格率90%を超えた。他は現在指導を継続している。	A	
	化学工学科	資格取得の充実	危険物乙種取得90%以上、甲種及び乙種全類取得表彰者数において前年を上回る。公害防止管理者ダイオキシン類合格者数全国1位を維持する。	3年生の乙種取得90%に達した。甲種危険物取得者も前年を上回った。公害防止管理者ダイオキシン類合格者数7名はこれまでの最高で、全国1位を維持できた。	A	
	国語科	実践的国語能力の育成	読む、書く、聞く、話すの各活動をとおして、十分に理解し、適切に表現できる言語能力を身につけさせる。	継続的に漢字テストの事後指導を行い、使用語彙の拡大と運用能力の向上に努めた。	B	
地歴公民科	基礎学力の定着・向上	授業内容を精選し、生徒が興味・関心を持つようなわかりやすい授業を立案し、基礎学力の向上を図る。	授業内容の精選・立案・実施を行ったが、生徒の興味・関心を引き出せたかに多少の疑問が残る。発表をする生徒も増えたが、基礎学力の定着には学年・科によってバラツキがみられる。	B		

数学科	個々の能力に応じた指導の徹底	課外や個別指導を行い、基礎学力および大学入試に対応する力を身につけさせる。	課外の計画的な実施や1日1題プリントの活用等で個々の能力に応じた指導を実践した。	B	
理科	学習に対する内発的動機付けの高揚	授業での発問を多くし、生徒の発表の機会を増やす。発表内容を参考にして、生徒の理解度を確認しながら授業を行う。	各学級とも発表は良くできた。常識的なことだと思っけていても生徒が知らないことが多々あることがわかった。	B	
英語科	基礎学力の定着と学力の向上	基礎学力の定着を図るとともに、発展的な内容も取り入れ、実力のある生徒の力をより伸ばす指導も行う。	生徒の学習習慣の定着については十分とは言えない。一方、進学コースや習熟度別授業の応用コースにおいて発展的内容を取り入れた授業を実践した。	B	
保健体育科	生涯スポーツに向けての実践力の育成	仲間と協力し、計画的な実践をとおして、知識や技能を高め、運動の楽しさや喜びなど達成感を体験させ、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を養う。	多くの生徒が意欲的に活動しており、概ね目標は達成できている。しかし、一部の生徒は種目によっては積極性がないので、今後の課題として捉えている。	B	
家庭科	生活的自立力の育成	生活的自立に必要な基礎的な知識・技術を習得させ、家庭生活において実践できる力を養う。	実習等を通して、基礎に重点を置いた指導をした。一部に関心がやや低い生徒もいるが、特に技術面では全体的に一定の成果が見られる。また、家庭クラブ活動は学習内容の実践を目的としているが、研究発表大会でその活動成果が認められ、四国大会出場が決まっている。	A	
音楽科	芸術的な感性・創造的な表現力の向上	高校生に親しみやすい楽曲を取り入れながら、歌唱・器楽演奏などを積極的に行い、基礎的な奏法を正しく身につかせ、かつ一人ひとりの個性を生かした表現力を養う。	器楽についてはほぼ全員の生徒が熱心に取り組み、個性も発揮できていたが、歌唱については全体の雰囲気盛り上がりがないクラスなどは声が出ていない時もあった。	B	
生徒指導	生徒指導	基本的な生活習慣の確立	家庭と連携し、また関係機関の協力を得ながら、中退者1%以内、長期欠席者1.5%以内にする。また、個別に指導が必要な生徒の数や欠席者・遅刻者の減少をめざす。	中退者・長期欠席者共に数値以内である。遅刻者は昨年同期に比べ減少しているが、個別に指導が必要な生徒は増加した。	B
	生徒指導	全職員による生徒指導の充実	服装等、校則の基準や指導基準をより明確にし、全職員が指導しやすい態勢をつくる。	従来、年2回行っていた生徒指導委員会を年3回にして、指導の基準があいまいなものや現在の状況に合っていないものを見直した。	A
	生徒指導	外部との連携による安全教育の強化と規範意識の高揚	警察等の関係機関と協力して、交通安全教育や薬物乱用防止教室・防犯教室を実施するとともに、少年育成センター・PTA等と合同で校外補導等を行い、連携に努める。	予定通り、警察に依頼して交通安全教室、薬物乱用防止教室、非行防止教室（携帯電話教室）、防犯教室、自転車検定を実施した。また、校外補導等も関係機関と連携しながら行った。	A
	教育相談	相談しやすい環境作り	スクールカウンセラーによる個人面談を昨年度以上に実施し、生徒・保護者の相談に早期に対応する。	相談件数が例年よりも多く、予定を組むのが大変であったが、SCの協力により迅速に対応できた。相談箱を設置した。	A
	教育相談	不登校傾向生徒、特別支援を要する生徒	不登校傾向のある生徒やその保護者、そして特別支援が必要な生徒に対する支援体制を確立しチームとして対応す	学習面や部活動等の問題で不登校気味の生徒が数名見られたが、SC及び相談部職員の協力と迅速な対応により、1名進路変更・1名休学という最終状	B

		徒、保護者への適切な対応	る。	況であり、例年並みに対応できたと考え	
	機械科	基本的な生活習慣の確立	服装、挨拶、言葉遣いなどをきめ細かく指導する。	きめ細かく指導したが一部の生徒の意識が不十分であった。	B
	電気科	基本的な生活習慣の確立	保護者との連絡を密にして、出席率98.5%をめざし、学習習慣を定着させる。	保護者との連絡は密にしているが、2、3年生で一部の生徒の出席状況が改善が不十分で、出席率が目標に届かなかった。	B
	建築科	基本的な生活習慣の確立	家庭との連絡を密にして遅刻・欠席をなくし、良好な学習環境を整える。気になる生徒に対しては個別指導を実施する。	家庭との連絡を密にしながら個別指導を続けてきたが、2学期に入り自らの今後の進路を別の方面に求める生徒が生まれた。	B
	化学工学科	基本的な生活習慣の確立	SHR時の担任による注意、職員室入室時の全職員による声かけ等を通じ、生徒の状況把握を行い、科の職員全員での生徒理解と指導にあたる。	職員の生徒への声掛けを積極的に行ったが、年度後半は、耐震工事で生徒の職員室入室が制限され、十分にできなかった部分がある。	B
特別活動	特別活動	ボランティア活動・リサイクル活動の充実	今年度始めたアルミ缶のリサイクル活動を軌道に乗せる。生徒のボランティア活動などへの関心を高め、積極的に参加する態度を養う。また、保育所との交流や清掃奉仕などをおして、社会性を身につけさせる。	アルミ缶回収の収益で、市内幼稚園へのプランター寄贈の協力ができた。また、市外のボランティア(お城祭り・献血等)にも積極的に参加できた。	A
	特別活動	部活動の活性化	1年生の入学率を上げる。四国大会出場部数を6以上、全国大会出場部数を3以上の目標の達成に向けて競技力の向上に努める。	全国大会及び四国大会出場数はほぼ達成できているので一定の評価はできるが、退部者も減少傾向にはあるもののまだまだ各部の取り組みが問われていると思う。	B
	人権・同和教育	効果的なLHR活動の推進	人権意識が高まるようにLHRの指導案と進め方の見直し作業を行う。	LHRの指導案や使用する資料を多少は簡素化したが、よりよいものに変化させるための見直し作業が途中段階である。	B
進路指導	進路指導	職業観・勤労観の育成	インターンシップや職場見学会、社会人講師の招聘等を通して、勤労意識の向上を図るとともに、将来社会人として自立できる能力や態度を育てる。	建築科は6月に、他の3科は10月に計画どおり実施し、報告会を各科で行った。また、各学科毎に職場見学会や社会人講師の招聘を行い、10月には第一線技術者招待講話を2年生対象に実施した。	A
	進路指導	進路支援の推進・充実と進路希望の実現	応募前の職場見学会やオープンキャンパスへの参加を積極的に促し、進路のミスマッチが起こらないよう指導する。企業訪問や学校訪問を積極的に行い、正しい情報の収集と追指導を実践し、適正な進路選択を指導する。	就職希望者については縁故就職希望者以外の生徒全員が内定した。進学希望者についてはオープンキャンパスへの参加を推薦条件として積極的に参加させた。進学希望者は現在96%の生徒が進学先が決定している。	A
	進路指導	進学指導の充実	明確な目的を持った進学意識の向上を図る。基礎学力の定着から、高度な応用力の育成までの指導を実践する。	大学教育に対応できる能力が定着していない。また、目標に到達するために努力しようとする意識が足りない生徒が多い。	B

	2年団	進路を意識した学力の定着	各自の進路意識を高めるとともに、進路実現に必要な学力を身につけさせる。	ホームルームや保護者懇談、校内企業説明会などを通して進路意識の高揚に努めた。	B	
	3年団	適切な進路の決定	早期に生徒の進路意識を高め、保護者との共通認識を図りながら、進路目標の達成に向けて積極的に取り組むよう指導する。	一部の生徒で、進路意識が低く準備が遅れた生徒もみられたが、ほとんどの生徒が指導していく中で進路決定に向けて積極的に活動し進路先が決定した。	B	
	機械科	職業観・勤労観の育成	インターンシップや企業実習をととして適切な進路を選択させる。	進路選択において自己理解ができていない生徒が数名いたが、多くの生徒は進路決定ができた。	A	
	電気科	職業観・勤労観の育成	インターンシップをととして専門性、勤労観を育み、職業選択に役立てる。	2年生はインターンシップを有効に活用できた。3年生の実際の進路選択では進路についてやや理解不足がみられたが、ほぼ進路は決定した。	A	
	建築科	職業観・勤労観の育成	インターンシップや建築士会会員との座談会等をととして勤労の精神や職業観を養い、そこで学んだ知識を進路選択に役立てる。	建設業協会、建築士会などと連携しながら行事を実施し、勤労観や職業観を養った。3年生全員の進路が決定した。	A	
	化学工学科	職業観・勤労観の育成	進路指導部と連携をとり、1年次に企業実習、2年次全員にインターンシップ、3年次に企業実習を実施する。さらに、企業訪問も積極的に行い、就職・進学希望者ともに100%の進路先決定をめざす。	各学年とも計画どおり企業実習等が実施できた。企業訪問も行え、就職、進学ともに100%の進路先を決定することができた。	A	
	進学コース	進学指導の充実	大学の学部学科調べを通して、自分が研究したい分野を見極めさせるとともに、大学入試や入学後の学習に対応できる学力を養成する。	志望理由書・面接・小論文など、志望校に応じた個別指導を行い、入試に対応できる学力を身に付けさせた。その結果、国立大学に4名が合格した。	B	
安全管理	学校全体	緊急時即応体制の構築	間違いや事故、災害は必ず起きるとの危機意識のもと、人の意識だけに頼らない、危機管理のシステム化を進めるとともに、防災等の訓練、個人情報等の点検を定期的実施する。	通常の避難訓練に加えて、今年度は津波に対する避難訓練を2度実施した。2度目は大幅な時間短縮も図れ、円滑な訓練が行えた。また、個人情報の点検を管理票により4度実施し、教員の危機管理意識も高められた。	A	B
	学校全体	危険物等の適切な管理と安全指導の徹底	不要物の廃棄、および工具、薬品などの点検・管理を十分に行い、実習時など生徒の使用時における安全指導を徹底する。	校舎の耐震工事に伴い、実習場所や保管場所等の制限を受ける中、工具、薬品などの安全点検、指導は適切になされ、実習等は概ね安全・円滑に実施された。	B	
保健管理	保健	感染症の早期予防対策の徹底	感染症に関する最新情報や具体的な予防対策を知らせ、自己の健康管理等の一助とする。 麻しんの予防接種の完全実施をめざす。	保健室だよりを毎月発行し、生徒へ健康管理について啓発を行った。1月の段階で、麻しんの予防接種の接種率は71.88%となっており、未接種の生徒に対しては予防接種の呼びかけを引き続き行っている。3学期に入ってからインフルエンザが校内で蔓延した。原因は校舎の改修工事によりHR教室がプレハブ校舎となり、例年とは異なった環境（エアコンでの暖房可となり湿度が不足）であったことによるものではないかと考えている。	B	B

組織運営	教育研究	校内LANの活用	ネットワーク環境の利用促進とセキュリティ確保の両立を図る。	ネットワークハードディスクを校務に活用できている。セキュリティ確保についても意識して利用することができた。	A	B
	事務	適正な会計事務の執行	物品調達において、複数業者から見積書を徴収し、競争性・透明性・コスト縮減を図る。又、検収や履行確認を十分に行う。	複数業者の見積り合わせにより、競争性を高めた。又、検収や履行確認については、事実に基づき、現物照合などを慎重に行った。	B	
	学校全体	組織のスリム化と職務の効率化	総務ナビ全面導入に伴う情報の共有化を進め、職務の軽減のための組織の連携およびスリム化、会議等の縮小化に努める。	ネットワーク化により、情報の共有はかなり進んだが、組織の連携が十分とは言えなかった。また、前年度に比して会議等の縮小化には至らず、スリム化、職務の効率化は余り進んでいない。	B	
研修	教育研究	現職教育の充実	各教科で授業研修を実施して、指導力の向上を図る。各種研究会の参加報告を行い、情報を共有して指導に生かす。	相互授業参観や初任者研修の機会を通して指導力向上に努めた。	A	A
保護者・地域住民との連携	教務	信頼される学校づくり	ホームページや学校だよりを充実させ、地域や家庭への情報提供に努める。外部からいただいた意見を精査・検討して教育活動に反映させる。	坂工だよりは昨年と同様に毎月発行し保護者に配布した。また、市内中学校にも送付した。	A	A
	渉外	PTA活動の充実	近隣の高校と連携し、合同交通安全活動や合同補導を実施する。	坂出市内四高校合同で連携し夏季街頭補導や登校時合同交通指導ができた親睦ソフトバレーボール大会に本校から多くの保護者が参加した。	A	
	機械科	地域との交流	坂工ものづくり教室や坂出塩まつりなどをとおして地域との交流を図る。	多くの地域の方に参加していただき大変好評であった。	A	
	電気科	地域との交流	坂工ものづくり教室を開講して、地域に開かれた学校をめざす。	坂工ものづくり教室、科学体験フェスティバル(香大)など地域のイベントに参加して積極的に交流を図ることができた。	A	
	建築科	地域との交流	坂工ものづくり教室を充実させ、地域に貢献する。	今年度は中学生も参加し、内容的にも充実し好評であった。	A	
	化学工学科	地域との交流	坂工ものづくり教室などのものづくり体験実習講座を行う。また、近隣の事業所との連携をはかり、化学分析指導や公害防止技術などの生徒への実技指導講習会を実施する。	坂工ものづくり教室、かがわの産業教育フェア2011、また、事業所と連携し化学分析指導や公害防止技術の実技講習会が実施できた。課題研究作品を持参して市内の小中学校を訪問するなどの地域交流も図ることができた。	A	
施設・設備	施設整備	環境整備	美化委員・奉仕部等を活用し、校内清掃の徹底、校内緑化・花作りを進める。	市内清掃の準備や片付け等で美化委員の活動が十分できた。しかし、清掃道具の修理やプランターに花を植える活動等は十分できなかった。	B	B
	事務	環境整備	生徒・教職員の要望を踏まえ、学習環境や部活動における環境の整備を行う。又、耐震工事に合わせて、準備を進めていく。	バレーボール支柱や化学工学科の備品などを購入したり、溶接実習棟のガス漏れ修繕等を行った。又、耐震工事に備えて、引っ越し等の業務、仮設プレハブ校舎のリース契約なども行った。	B	

## ◆学校関係者評価集計表

評価項目		学校評議員の意見
学校行事	授業参観(公開授業)	生徒は落ち着いて真面目に授業や実習に取り組んでいた。実習作業をしている生徒も服が汚れるぐらい熱心に旋盤加工などをしていた。また、安全面の配慮も十分になされていた。公開授業の実施方法や回数などについては、随時検討していただきたい。
	体育祭 9/27	きびきびとした生徒の動きは、見ていて気持ちよかった。生徒と先生と一緒に競技していたのはよいことである。会場の片隅で遠慮がちに観覧していた保護者を見受けたが、中央テントで観覧していただくとよかった。
	課題研究発表会 1/19、23	大勢の前で発表する緊張感が伝わってきた。いずれの発表もよくまとまっており、面白い研究内容であった。先生方の指導のよさを感じた。発表する生徒達の姿から、彼ら将来が期待でき、明るく楽しい気分になった。
各種評価	学校評価 (保護者・教職員アンケート調査等)	1年生と3年生の評価はよいが、2年生の評価結果が厳しいのが気になる。中だるみと捉えることもできようが、反面、進路について腰を落ち着けて考えたり、体験するのに絶好のタイミングではないかという認識を持った。
	生徒からの授業評価 6月下旬 12月上旬	概ねよい評価であると思われるが、1年生で2回目の授業評価が下がっているのが気になる。それは、生徒の自己評価にも連動しており、改善の糸口にしていただきたい。2年生の専門教科の評価が例年低いうであるが、改善すべき点については学校内部で議論を深めていただきたい。
	公開授業・体験入学 坂工ものづくり教室アンケート	よいアンケート結果がでており、素晴らしいと思う。坂工ものづくり教室は、生徒が参加した子ども達を教えており、とてもよい。参加希望者が多く、一部受講できない場合もあるとのことであるが、応募者全員が受講できればなおよいと思われる。
各種指導項目	教科指導 専門教科・普通教科	教科指導上の問題点を見つけ、改善しようと努力されているのが見える。検定、資格取得については、今後も頑張っていたきたい。生徒自身の成長はもちろんのこと、「坂工高」の外部評価も一層高くなっていきます。
	生活指導	生活指導全般によい指導をしている。不登校気味の生徒への支援が素晴らしい成果を上げている。
	進路指導 就職・進学	進学では国立大学に4名合格し、就職希望者については100%内定した成果は、素晴らしいと思う。粘り強い指導のたまものであると思う。
	施設設備	機械、器具等の整備は大変なことであると思う。現在、1号棟は耐震工事中であるが、すでに耐震工事を終えた校舎や実習棟はよくなっている。
	部活動 運動部・文化部	カヌー、ラグビーフットボール、バレーボールなど部活動は熱心であり、よい成績を残している。優れた指導者を確保していくことは大変なことであると思う。
事務部	耐震工事が順調に進んでおり、ご苦勞であったと思います。	
自己評価表	自己評価を厳しくしていることに、真剣さと誠実さを感じる。目標は高く、自らに厳しく、この方向でいいと思う。テーマについては、継続的にとるものと、重点テーマを少し入れて議論の盛り上がるようにしていただいたらよいかと思う。今後、さらに関心の引くようなものを目指していけたらとよいと思う。	

その他の評価・意見	<p>学校を訪れる度に生徒から挨拶をしてくれて気持ちがよくパワーをもらった様に感じた。校長先生はじめ先生方の生徒に対しての指導が行き届いており、学校全体が落ち着いている。様々な積極的な取り組みが実を結んできていると思う。子どもから大人への大切な成長期、特にかかわり方が大切とも思う。よく粘り強く一人一人の子ども達を成長させてくれている。</p> <p>坂工ものづくり教室はさらに歯ごたえのある取り組みに、特に生徒中心のものに変えていっていただくのであれば今後が楽しみである。予算などは従来通りとして、知恵でどこまでよいものになるか苦労したり、成功させて欲しいと思う。</p> <p>工業高校の定時制の意義について大いに考えさせられ、目を見開かされた思いです。学校評議員として関わり、学校の様子がよくわかり、先生方の思いやご苦労をより身近に感じました。</p>
-----------	---